

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン

ODNJP 会報 No. 6

2024年6月15日発行

Open Dialogue Network Japan

Newsletter No. 6 (June 15, 2024)

01. 会報について	p. 1
02. 運営委員会報告	p. 1
03. 委員会報告	p. 2
04. 主催イベント報告	p. 3
05. アドバンストコース	p. 10
06. オープンダイアログの本紹介	p. 11
07. 編集後記	p. 12

01 会報について

このたび第6号となる会報を ODNJP の会員のみなさまにお届けできることを広報委員一同嬉しく感じております。2015年に ODNJP が発足して、今年が9年目を迎えました。この間様々な活動を通して、ODNJP はオープンダイアログに関する情報提供や研修などを通して、日本におけるオープンダイアログの普及や実践支援などの活動を行うことを目的に、多くの困難があったここ数年にわたるコロナ禍を乗り越えてその活動を継続して来ました。本会報は、ODNJP の活動を通して得られた情報や体験の共有を会員のみなさまにどうしたら分かりやすく提供出来るかということを目眼に毎号企画をして来ております。

今回の第6号の発行にあたっては、昨年の総会イベントの内容や不定期開催の ODNJP の未来を語る会などの内容はその速報性を活かしたいという想いから、会員限定での早期公開を実現しました。しかし、今回あらためて他の活動も含めて一緒に掲載されたこの会報を読むと、オープンダイアログの実践場面で常に大切にされてきたその場にいる”ひとりひとりの声”を大切にしていこうということが、どの活動でも本当に大切にされて来ていることが感じられました。

引き続き会員ひとりひとりの声大切にされる会報の継続的発行に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

文責 ODNJP 広報委員
笹原信一朗、大谷保和、杉本光衣

02 運営委員会報告

運営委員会は原則として、1回の委員会のうち、前半の時間は委員会報告、後半の時間は議題の討論という形式で開催された。以下では前半の時間の委員会報告は省き、議題部分について報告する。

2023年5月27日

2023年度運営委員の立候補と推薦が締め切れ、運営委員に結果が共有された。総会・総会記念イベントの企画と役割分担が確認された。

2023年6月17日

2023年度総会の前日に開催され、総会に諮る事項の最終確認ならびに、総会記念イベントについての確認が行われた。2023年度の運営委員の日程が、原則として第三

土曜日に決定した。

2023年7月22日

2023年度初の運営委員会として、新しい運営委員を迎えた。今年度の活動についてアイデアが共有された。

2023年8月26日

委員会報告が中心の回であった。9月10日に開催される「ODの未来を語る会」の開催状況が確認された。

2023年9月30日

運営委員会の形式について検討され、最初の30分を対話の時間とすることが決定された。運営委員会の対面開催も検討することに決定した。

2023年10月28日

ネットワーク委員会より、2024年3月10日に実践報告会を開催予定であることが報告された。実践報告会の開催方法についてもアイデアが共有された。

2023年11月25日

運営委員会をハイブリットで開催した。今後も定期的な対面開催を検討することとなった。委員会報告が中心の回であり、議題はなかった。

2023年12月23日

委員会報告が中心の回であった。次回の「ODの未来を語る回」の開催状況が確認された。

2024年1月27日

ネットワーク委員会より実践報告会の発表申込状況が報告された。委員会報告が中心の回であり、議題はなかった。

2024年2月24日

トレーニングコース委員会からの依頼により、トレーニング基礎コースの開催に関するヒアリングが実施された。広報委員会より会報 No.6 の記事作成依頼があった。

2024年3月23日

ネットワーク委員会から実践報告会の終了報告があり、運営委員会でも来年度に向けた意見が出された。

2024年4月27日

ハイブリットにて開催された。ガイドラインのオーディオ化が提案され了承された。総会・総会記念イベントに向けてのアイデアが共有された。

2024年5月25日

総会・総会記念イベントの企画について議論され、最終的な企画と役割分担が確認された。

03

委員会報告

「会員参加可」という記載のある委員会は、ODNJP 会員の皆さまに参加いただけます。ご関心のある方は ODNJP 事務局までご連絡ください。

トレーニングコース委員会

トレーニングコース委員会の 2023 年度の活動は、引き続き OD アドバンスト・トレーニングコースの運営が中心となりました。トレーナーや関係の皆様のご尽力で、2024 年 4 月現在、全行程のほぼ 8 割が無事終了しています。2023 年 9 月には久しぶりの対面で中間祭を無事開催することもできました。2 年間に及ぶコース運営ははじめての経験であり、時として運営上のさまざまな困難に直面することもありましたが、その都度関係者で話し合いながら進めてまいりました。2024 年 9 月の終了に向けて、最後まで引き続き取り組んでまいります。また新しいトレーニングコースの開催についても、平行して検討しています。特に会員の皆様からの期待の高い基礎トレーニングコースについて、さまざまな形で開催について検討を重ねており、決定次第ご案内させていただきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(大谷保和)

ネットワーク委員会 (会員参加可)

ネットワーク委員会は、会員の皆さまが各地で育ててきた実践を持ち寄り発表し合うことで、必要とされる方にもつながっていける実践報告会の企画運営を中心に、活動を行っています。

毎月 1 回のオンラインミーティングでは、あえて代表者を設けず、委員一人一人が丁寧に言葉を重ね合い、また新しい委員の声を呼び込むことで、例年開催している実践報告会の企画、立案が形式に陥らないよう意識しています。準備段階では無理のない範囲でお互いが作業を分担し、開催につなげてきました。今年も広報委員会と連携しつつ、会員の皆さまからいただいたアンケートを元に、より豊かな実践報告会や、その他ネットワークに資する活動を進めていきたいと思っております。

昨年度の実践報告会は発表者数、参加者数とも一昨年度を下回りました。今年度は ODNJP 開催 10 周年にもあたり、より多くの皆さまが参加する実践報告会開催をめざし、さらなる新メンバーを招き入れたいと願っています。ネットワーク委員会に関心をお持ちの方は ODNJP 事務局までご連絡ください。皆さまと一緒にネットワーク活動を盛り立てていけることを楽しみにしてお

ります。

(高橋比呂志)

広報委員会 (会員参加可)

広報委員会では、今年度 2 つの事項を中心に、活動を行なって来ました。

1. 会報の発行

今年度も定期発行を継続し、ODNJP 各委員会の活動と主催イベント等の報告を中心に No.5 を発行することが出来ました。またイベント実施後の速報を意図して、一部記事を早期公開としてメールと Slack にて配信いたしました。近く No.6 も発行される予定です。

2. 会員間の交流サポート

Slack を活用して、会員間の交流サポートを継続しています。しかしながら、Slack 自体の規定改訂により、投稿より 3 ヶ月を過ぎたものは表示されなくなることになり過去記事のアーカイブ機能がなくなりました。そのことで、会員のみなさんにご不便もあり、ODNJP の未来を語る会での会員の声から Discord の運用を望む声も聴かせて頂いています。現在、Discord も含めてさらなる会員交流のサポートを進めるべく検討を続けています。今後もぜひいろいろな声を聴いて、より良い活動につなげて行きたいと思っておりますので、引き続きどうぞ広報委員会の活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(笹原信一朗)

ワークショップ委員会

ワークショップ委員会では、2022 年度に引き続き、初学者を対象にした①オープンダイアログの学びを深める機会を提供すること②学ぶ者同士でネットワークを作る機会を提供することを目的としたワークショップを継続的に開催してまいりました。2023 年度は 2023 年 6 月 11 日に第 3 回、2023 年 9 月 3 日に第 4 回、2024 年 2 月 4 日に第 5 回の 1day ワークショップをオンラインで開催しました。参加者の皆様には温かい学びの場作りを担っていただき、また、プログラムへの貴重なフィードバックを頂き、感謝しています。2024 年度は 7 月 6 日に対面のワークショップを開催するなど、既存の 1day ワークショップに加え、新たな形態のワークショップも計画してまいります。

(山田成志)

04 主催イベント報告

2023 年度総会記念イベント 「オープンダイアログを巡る 私達のダイアログ」

2023 年 6 月 18 日 (日) 13:00 ~ 16:45 オンライン開催
参加費：正会員・賛助会員 無料、非会員 2,000 円、
非会員当事者 500 円

第 1 部 チェコ・オロモウツ学会参加印象記：6th International Conference on Dialogical Practices に参加して

登壇者：大井雄一、大谷保和、川上奈美子、斎藤環、星野概念

2023 年 5 月 17 日から 20 日までチェコのパラツキー大学オロモウツで、第 6 回・対話実践の国際会議 (6th International Conference on Dialogical Practices) が開催されました。講演者として ODNJP 共同代表の斎藤環さんが招かれ、日本からは 5 名 (大井雄一・大谷保和・川上奈美子・斎藤環・星野概念) が参加しました。本企画では、学会の様子や参加した印象を上記参加者で振り返りました。

(1) 斎藤さんの招待講演の内容は、オープンダイアログ (OD) の日本における現状、OD への「中動態」概念の導入、また現在研究実施中の「リモート対話実践プログラム (RDP)」の紹介の 3 つが中心でした。特に中動態の視点は他国の参加者からも高い関心を集めていました。(2) 大井さんと大谷は「対話は人間の健康と幸福をどのように促進するのか？」をテーマとしたワーキンググループを主宰し、斎藤さん・川上さん・星野さんも含め、20 名程度の参加者で活発な議論を行いました。ヤーツコ・セイックラもメンバーとして参加してくれたのは嬉しい驚きでした。「対話が人間の健康を促進する条件とは何か」「対話はいつも健康生成的とは限らない」「問題は個人ではなく関係にある」「クライシスが創造のきっかけとなる」…様々な声が出ましたが、最後のプレゼンテーションでは参加者全員分の短い声をそのまま載せるビデオを撮影して上映し、反応良く終えることができました。英語に苦労しましたが、覚束なくとも声を出すことが最大限歓迎される雰囲気があったのもありがたかったです。(3) 学会は小規模でしたが 100 人程度が集まり、興味深いセッションやワークショップがいくつも開催されていました。個人的には「家族面接の中でセラピストのどのような関わりが効果的なのか」「動機づけ面接と OD」「対話的なやり取りの中で生じるパワーの問題」に

関心を持って参加しました。全体的にアットホームで少しゆるい雰囲気でありつつ、だからこそ参加者同士がフランクかつ真剣に話し合える感覚がありました。懇親会や夕食会でのやりとり、オロモウツの街の雰囲気も含めて、大変充実した時間だったと思います。

当日は学会に参加した 5 名で久しぶりに再会し、懐かしい気分になりながら感想をシェアさせていただきました。ある場面で何を見て何を感じたかは、出会った人との関係の中に自然と立ち表れるのだなど改めて思った次第です。関係の皆様、当日イベントに参加くださった皆様、ありがとうございました。

(大谷保和)

第 2 部 ネットワーク委員会のダイアログ

午後の第二部は、ネットワーク委員会の企画で「オープンダイアログの現在 (いま) を掘り下げる～それぞれのネットワークの視座から～」と題して実施しました。

以前から、即応性のある柔軟なプログラムに取り組んでみたかったわたし達は、今回会員の方々にご参加いただくグループワークのテーマをその場で選ぶという新しい試みに挑戦しました。まずはじめに、ネットワーク委員会としての対話をし、委員それぞれが今オープンダイアログに何を思い、何について声を重ねてみたいのかを話しました。そして参加者の皆さんに、委員会の話を聞いて動いた内的対話から応答してくださる声、グループで声を出し合って浮かび上がったキーワードなどをリアルタイムに語っていただきました。そこから、ヒエラルキー・苦しさ・体験の分かち合い という 3 つのテーマを選ばせていただき、それぞれの対話の部屋を作りました。また同時に、同じ地域の方々と交流しネットワークを広げたい方のために、地域ごとの部屋も作りました。どの部屋においても活発な対話が繰り広げられ、クロージングでも多様な声が重ねられました。

これからも、集まった人が同じ空間で対話することで生まれてくるものを、大切にしていきたいと感じる時間となりました。

(ネットワーク委員会 村井美和子)

オープンダイアログの未来を考える会

第 9 回

2023 年 9 月 10 日 (日) 13:30 ~ 16:00 オンライン開催

第 10 回

2023 年 12 月 3 日 (日) 13:30 ~ 16:00 オンライン開催

第 11 回

2024 年 4 月 20 日 (日) 9:30 ~ 12:30 オンライン開催

参加費：ODNJP 正会員・賛助会員 無料

第 9 回に関する報告

参加者：47 名

ファシリテーター 森田展彰、石橋佐枝子

ネット操作など運営サポート 村上純一

コメント 太田茂行

普段と異なり、ODNJP 運営委員・オブザーバー 4 人で「OD の日本への導入の未来や課題に関する対話」を 30 分行った後に、それを聞いた上で、ブレイクアウトルームで、小グループ (4, 5 人) での話し合いを一回行った。最後に全体でシェアリングを行った。

- OD が広がってきたが、精神医療ではまだそれが広がっていない。
- 精神看護学実習に取り入れることで、OD を体験したことのない精神医療福祉の関係者に広げることができ、よい反応もある。
- ネットワーク委員会の活動で、地域で様々な対話の実践が増えていることを実感する。
- 滝山病院事件のように、一方的な関係性で人権侵害に至るケースが生じており、これは OD とは正反対ものである。OD が精神医療の状況に良い影響を与えられるといいと思っていること。

これらの対話を受けて、いろいろな声が重ねられた結果、各地域での OD の実践を見据えた活動が盛んになっており、会の中でもそうした報告や意見交換が積極的に行われた。ODNJP に対する要望もそうしたネットワーク活動を促進するための具体的な提案が多くの会員から寄せられた。

第 10 回に関する報告

参加者：41 名

ファシリテーター：大井雄一、神野雅史、森田展彰、

この日の流れ

今回は、小グループ (4, 5 人) での話し合いをブレイクアウトルームで行って、シェアリングするというセットを 2 回行った。

対話の主な内容

OD を受けたい当事者や家族がどのようにたどり着くかという話題が出て、OD が日本でどのように学べるか、あるいは広げていけるかという話がでた。具体的にこうした勉強会をしているとか、そこに ODNJP の運営員も講師として来ているなどの情報交換があった。その一方で、OD という名前は広まったが、単なるスキルというだけで見ている人もいるが、もっと根本的な見方や哲学として理解してほしいという話が複数の人から出た。本人のいないところで本人のことは話さないということについて、領域関係なく、声にならない声をどう聞くかということが大切であり、その視点は、いろいろな分野に影響を与える重要な視点 (「コペルニクス的な転

回」と表現される方もいた) であるというはなしが出ていた。いずれにしてもそうした OD の名が広がるだけでなくその先の展開を期待しており、当事者や家族が必要を感じた時にいつでも気軽に OD を受けられるようになってほしいという期待が表現されていた。

OD や対話実践の広がりとして、福祉や教育領域での職員会議、家族会、医療観察、発達障害の当事者、吃音の方、引きこもりの当事者や家族で用いていることを教えていただいた。そのうちの一つである職員同士の会議で使った方のお話では、OD を知らない人がいて使っても、対話的になれるという手応えを感じているとのこと。また、引きこもり家庭に訪問しての OD のことを話してくださった方は、引きこもる前・不登校になる前の入りの口な所でもまたダイアログが必要と感じていると話されていた。他に、発達障害に関する対話実践をされている方から、とにかく本人が自分の考えを話せることは簡単でなく、少しでも声が聞けるようにすることを大事にしているというお話が出た。それに応える形で、吃音の方の支援に OD を使われている方は、話ができる場を作ることが大事で、問題解決や何かを決めたりということではないことを強調されていた。他に、ビジネス界での OD の広がりなどを教えていただき、医療分野の枠を超えて広がっていて、特別なものではなく多くの領域に共通する視点をもっているという話もでた。

他分野での広がりのお話の一方で、精神医療の場での OD の広がりということをあきらめたくないという話が出た。ACT の中で OD を行う事が難しかったので、まずは別の場所を作って始めてみたという人もおり、医療で OD を広げることの難しさと必要性の両方が出ていたといえる。

意見交換会そのものについては、「参加して今回も安らかになれた (チャットより)」などもいただき、こうした場を継続する意味があることが示唆された。

第 11 回に関する報告

参加者：39 名 (スタッフ含む)

ファシリテーター：森田展彰、福井里江

この日の流れ

今回は、小グループ (4, 5 人) での話し合いをブレイクアウトルームで行って、シェアリングするというセットを 2 回行った。

対話の主な内容

まず、ある参加者がご自身の回復のエピソードについて話され、その苦勞に共感するとともに、OD のプロセスを大切に継続してきたことが役立ったと感じているという話から始まった。その後、臨床の場に限らず、様々な組織のヒエラルキー、上下関係の存在が常にどの組織にも存在することや、OD をもとにした対話的な場をもって、その有用性を感じているという話が出された。そう

した実践を始めたきっかけの1つがODNJPの未来を語る会への参加であったという方もいた。こうした試みでは、厳密なオープンダイアログではなくても「オープンダイアログマインド」という視点で取り組んでいるという話があり、それに賛同する意見が複数の人から出された。一方、こうしたODマインドを持っていない人にどう拡げていくかが課題であるという声もあった。そうした課題を解決する方法として、それぞれ身近なところで対話的実践を始めることが重要であるという意見があった。

ODの考え方をいろいろな領域で応用する意見とは別に、精神医療でのODを広げることの必要性も多くの方が述べていた。ODにより、精神疾患への偏見、社会全体の意識を変えたいという思いが語られた。家族の立場の方からは、親が高齢になってくると当事者の将来への不安が強くなることが語られ、ODが広がり、状況が変わってほしいという切迫した悩みが訴えられていた。

それ以外には、研修を受ける機会を増やしてほしいことや、活動における経済的問題についての苦労などが語られた。

★アンケート結果

今回は、この会としては初めて、終了後にこの会の感想や意見についてアンケートをとったところ21名の方からの回答をいただいた。その一部の内容をまとめると、「ODマインド」を共有できる当事者や様々な分野の人と対話できたことが刺激や希望になったことを多くの方が書かれていた。また、初めての参加の方も多く、OD関連の情報や思いがきけたことが有益だったというお話や、もっとそうした機会が欲しいという意見も多くみられ、こうした場に触れることへのニーズの高さを感じられた。一方、本会に対する要望もいくつか出され、もっと頻度や時間を増やしてもよいのではないかという意見や、会の中の運営の仕方に関する意見もいただいた。

オープンダイアログ 1day オンラインワークショップ

第3回

2023年6月11日(日) 9:30～16:45 オンライン開催
講師：石橋佐枝子、岩波孝穂、大井雄一、大谷保和、河上真人、福井里江、山田成志

第4回

2023年9月3日(日) 9:30～16:45 オンライン開催
講師：石橋佐枝子、岩波孝穂、大井雄一、大谷保和、岡本和子、河上真人、福井里江、山田成志

第5回

2024年2月4日(日) 9:30～16:45 オンライン開催
講師：石橋佐枝子、大井雄一、大谷保和、河上真人、白木孝二、山田成志

参加費：10,000円

参加者：ODNJP 正会員

2023年度は2023年6月11日に第3回、2023年9月3日に第4回、2024年2月4日に第5回の1dayワークショップをオンラインで開催しました。毎回募集開始後すぐに30名の枠が埋まる盛況で、オープンダイアログへの関心の高さ、ワークショップのニーズの高さを実感しました。当事者、家族、医療、心理、福祉、産業、司法、教育など様々なバックグラウンドの方が参加され、その場で生まれる偶発的な学びに溢れ、講師を含め、半学半教の場となっていたように思います。「背景となる理念の説明から、実践的なワークまで盛り込まれた充実した一日でした」「対話を意識しあえる仲間と対話の構造を意識した対話ができること、素直な気持ちをアウトプットしあえること、素晴らしい体験になりました」「じっくりと自分の話を聞いてもらって、自分も相手の話をじっくりと丁寧に聴く事によってお互いの多声性(ポリフォニー)を認め合うことができるような気持ちになりました」など嬉しい感想をいただいています。来年度もよりブラッシュアップした形でワークショップの開催を継続していきたいと思っています。

(山田成志)

2023年度 実践報告会

2024年3月10日(日) 10:00～17:00 オンライン開催
参加費：ODNJP 正会員・賛助会員 無料

今回の実践報告会は、「私たちは何のためにオープンダイアログを、また実践報告会をするのか」という原点に立ち戻り、「オープンダイアログの何に惹かれ、どこに行こうとしているのか」という副題のもとで開催いたしました。まずオープニングセッションにおいて、この問いかけについてネットワーク委員の思いを対話形式で重ね合い、その後、2会場に分かれて、正会員の皆様の実践を10題、ご発表いただきました。そして最後に、例年通り、関心のある地域ごとに分かれて、お互いの活動を共有したりつながりを作ったりする時間を設けました。

以下、各会場の見守りびとより、それぞれの会場の様子についてご報告いたします。お互いの実践からの学び合いとネットワーク作りが、これからの対話実践を後押しする力になればと思います。

(福井里江)

■A会場(午前)

見守りびと：村井美和子、森田展彰、門前静枝

A会場の午前の演題は医療の分野における実践報告でした。どの演題もとても心に残るご報告内容であったた

め、今でも、私の中では、様々な声が折り重なっており発酵が止まりません。そのような今も続いている私の中の声を少しでもご紹介させていただきたいと思います。

演題1：とある治療ミーティングの「ふしぎ」を参加したみんなで振り返る

発表者：村上純一・山中一紗（琵琶湖病院）、よっしーさん、ななしのごんべ

村上さんと山中さんが、当事者のよっしーさんとお父様であるななしのごんべさんの4人で、普段のミーティングのふしぎさと魅力について対話を繰り返しながらご報告してくださいました。その時、会場にいた皆さんと一緒に何かを感じることが多かった、とても有意義な時間でした。一人一人の人柄を通して、ダイアログには欠かせない要素が自然とたくさん含まれているように見えました。その中でも、私が特に魅了され、心に残ったふしぎは…。お父様のななしのごんべさんの存在です。お父様からの『言葉』は、ほとんど無かったのですが、それでも、お父様との対話が一番多くあったように感じたということです。それは、なぜか？お父様の声は、娘さんであるよっしーさんが、代弁されていたのですが、それは、よっしーさんの単なる推測ではなく、お父様の顔の表情や身体など言葉以外からも感じられる何かを、お父様の内なる声として聞き、その声をよっしーさんの内なる声とも重ねて、私たちにお父様の声を忠実に映し出してくださいましたからではないかと思いました。そのような対話からは、『愛』が形として見えるようでした。当日は、リフレクティングという役割もあってかなり緊張していたのですが、この瞬間は私の身体も緩んだのを思い出しました。魅力あふれるたくさん「ふしぎ」を有り難うございました。

演題2：生活の場での8年間のダイアログを振り返る～訪問看護と訪問診療、それぞれの立場から

発表者：三ツ井直子（訪問看護ステーション・シナモンロール）、糸山直恵、森川すいめい（ゆうりんクリニック）、ファッションデザイナー 川島美由紀（ゆうりんクリニック）、動画参加 クライアント家族、吉澤美樹（訪問看護ステーション・シナモンロール）

8年間に及ぶ訪問看護でのダイアログの実践を三ツ井さんが代表者としてご報告してくださいました。クライアント家族であるさくらさんと、ももこさんは、精神科医療の課題について、とても重要な体験を動画という形で参加しお話ししてくださいました。『一方向性の視点から固定化されていく診断をめぐる思い』、『「声」について安心して声が出せる関係性への変化』これらの文が抄録の時点から強く心に残っていました。そして、当日のご報告を体感させていただいて、オープンダイアログの3つの側面をとても誠実に大事にされていると

感じたのですが、今こうして振り返っていると、3つの側面に挙げられている中から「協働」と「共に」という文字が更に色濃く浮かんで来ました。一人一人、別人ではあるけれど、目の前の方の体験を共に体験しようとするあり様や、共に前に向かって何かを作り出そうとする人間の強さ、優しさなどを実践報告会の時に、私たちにを見せてくださっていたからではないかと感じてきました。

今回、さくらさんと、ももこさんが勇気を出してご参加してくださったことの意味を大切に受け取り、学ばせていただいたことを、一人でも多くの方に反映できるよう精進して行きたいです。

演題3：RDP(リモート対話実践プログラム)と対面ODを組み合わせた実践について

発表者：斎藤環（筑波大学医学医療系、あしたの風クリニック）、斎藤めぐみ、斎藤瑞実、佐々木明香（あしたの風クリニック）、大井雄一（渋谷川診療）、樋口倫子（明海大学）、当事者2名

斎藤さんが代表者として、治療チームの方と当事者、パートナーであるご家族と共に、個人療法→RDP→ODという過程を、振り返る形でご報告してくださいました。

RDPにパートナーの方と参加されたというこの段階は、特に参考になりました。RDPの方法だと、ご家族の方がより参加しやすいのだろうな…と。前向きなイメージが想像しやすかったのですが、しかし、それだけではなく、ご報告からは、参加するにあたって生じると思われるご家族の不安材料も、しっかりケアされていると感じました。家庭内のことを他人に話すという抵抗感や、どこまで話せば良いのかという戸惑いなどに対して、『話したくないことは話さなくていい』という安心安全には欠かせない、とても大事なことが、当たり前レベルで守られているのだと、当事者、ご家族であるコウさん、アツコさん方の声色など、当日の発表の雰囲気から感じ取れました。そのため、RDPでも自由な空間が広がって、個々の鍵も開きやすくなり、様々な声が出せたり聞けたりしたのではないかと。それ故、回復へとより加速したのではないかと思いました。

最後に、こちらの演題からは、オープンダイアログの原則の一つである「柔軟性と機動性」という言葉も浮かびました。大切なことはきちんと大事にされたまま、創意工夫して行けば、様々な方への提供が可能になるのではないかと。そして、私ごとで大変恐縮ですが、聴覚言語障害と双極性障害を持つ親戚に対しても、何か方法が考え出せるかもしれないと、希望を抱くことができるご報告内容でした。

以上、本日の段階での私の内なる声です。今回、たくさん学ばせていただいたことを発酵に留めず、熟成もさ

れるように自分自身の成長をこれからも心がけたいと思います。

(門前静枝)

■ A 会場 (午後)

見守りびと：大熊由紀子、神野唯史、福井里江、本多寿行

演題 4：オープンダイアログの勉強会が発足し、小さいながら実践につながっていることの報告

発表者：星野俊弥（北里大学病院）、瀧澤香織・清滝なるみ・今井ひとみ・藤田幸世（北里大学病院）

総合病院の精神科においてオープンダイアログの勉強会が発足して、定期的で開催されていることが報告されました。参加する医師・看護師による対話形式の発表で、その場で生まれた言葉による笑顔も見られ、対話実践を学ぶ勉強会そのものが対話的な場になっていることを見せていただけました。それが病院という場で始まるという大きな一歩から、日々の仕事についても、より対話的な形を取りたいという思いが広がり、大きな変化をもたらす最初の風になるのだろうと感じられる発表でした。

演題 5：くじ引き方式による偶発性を活かした対話実践

発表者：高橋比呂志“ロッキー”（荒井オープンダイアログのつどい）、石嶺正夫“みねジャムさん”、沼里理恵“ぬまちゃん”、武蔵諒祐（東北大学大学院臨床心理学コース博士課程）“すけさん”

地域の対話を広げることにオープンダイアログの手法が使われている実践事例でした。対話を始めるきっかけとして、質問が書かれた「くじ」を活用しているのは、自分自身の思いを語ることから始めるという導入に苦しさを感じてしまう方がおられることに注目し、くじを使うことで偶発性を生み、対話が無理なく広がっている様子を見せていただきました。報告の際は、くじは「谷川俊太郎の 33 の質問」から作られており、そこから「馬に乗って風になるお話」が展開されました。また発表の中での思いとして、今の世の中が、あまりにも瞬間的な返答が求められるようになってきていることへの疑問が語られました。長い時間をかけてつくられた人の思いは、一瞬で答えられるものではないと考えると、ゆっくりとしたペースで話せる場所が地域にあることが、改めて大切だと感じました。また技術担当の方による臨場感あるカメラワークも印象的で、アイデアが自然に生まれる創発性が感じられました。

(本多寿行)

■ B 会場 (午前)

見守りびと：岩渕一之、葦沢明

演題 6：「ささいなこと(!?)」こそ、表現しよう～BaseCamp 流オープンダイアログ～

発表者：中島裕子（就労継続支援 B 型 BaseCamp）、就労継続支援 B 型 BaseCamp メンバーたち（就労継続支援 B 型 BaseCamp）

就労継続支援 B 型事業所 Base Camp さんでは、ご利用者さんの行き詰まりや困りごとがあるとき、演劇的な要素を取り入れて台詞のみならず身体表現を用いた研究、助け合い活動を実践されています。今回フォーカスしたのは急性期にいたる前の「危機的状況」に対応する相談としての対話。その「些細なこと」をすくいとること。発表されたみなさんは、Zoom のカメラが事業所を広く写せるように調整して臨まれました。みなさんの工夫が盛り込まれた実践風景は、一度見学してみたい！という気持ちが湧き起こるような楽しく可能性に満ちた発表でした。

演題 7 オンラインの即時対応オープンダイアログ実施体制の構築について

発表者：西岡望（一般社団法人オープンダイアログ・アプローチ研究会 FLAT）、久保田晃祥・越名智美・川島真希子（一般社団法人オープンダイアログ・アプローチ研究会 FLAT）

インターネット環境を存分に活用され、「インフラとしてのオープンダイアログ」を軸として幅広く活動されている FLAT さん。運営メンバーそれぞれが遠く離れた場所にお住まいであるというハードルを反転させ、逆にそれをどこでもつながれるメリットに変えてさまざまな意欲的な実践を展開されています。「いま話したい」に対応する活動だけでなく、講演会やイベントを精力的に展開されている日々の活動の様子が伝わってきました。今回は見守り人のリフレクティングも取り入れた発表でした。

演題 8：ODを通じて人と繋がる：発達障害当事者の実践と挑戦

発表者：岩崎堅治〈作業療法士〉、中條、片山ケンキチ、カタヤマ、りえ、りこ

発達障害の当事者の方も運営に参加して活動をされていらっしゃるなか、今回はまるで近所の誰でも気軽に扉を開けてくつろぐことのできるカフェのような時間を提供していただきました。研究の目的は、オープンダイアログがメンタルヘルスの回復や人の繋がりへの促進にどれだけ寄与できるか。それぞれの語りのなかで、いつもとは違う緊張感に戸惑うこともあるわけですが、それを

そのまま言葉にされ、きつといつもと同じように応答を返していらっしやるのだらうな、と見守り人も感じられた 50 分でした。

(岩淵一之)

■ B 会場 (午後)

見守りびと：相澤和美、植村太郎、太田茂行

演題 9：対話型コミュニティの活動が停滞していると感じても踏みとどまった方がいいのか

発表者：田頭秀悟「たがしゅう」（たがしゅう対話重視型コミュニティ）、きいちゃん・とらっち・おさむん・さち・ちと・ともこ・まつぎき（たがしゅう対話重視型コミュニティ）

たがしゅうさん達は、いわば、「成功事例」の紹介ではなく、この一年で次第に参加者が減っているという活動の現状について、代表者のたがしゅうさんが今後の活動への自分自身の不安や疑問・揺らぎ・迷いなどの率直な思いを、あらためて同じグループの仲間にも聞いてもらい、リフレクティングもしてもらおうというチャレンジングな発表となりました。代表者として「停滞」と感じる活動に対して、そもそも停滞とは何か、と自問しつつ、メンバーにアンケートを出したり、未来語りのダイアログも試みたり、などの対策も行なってきたがメンバーの減少は変わらないままとのことで、「どうしたら良いのだろうか…」、という思いが伝わってきました。会場ではチャットでの感想も積極的に求められました。リフレクティングを通して、「今度はたがしゅうさんのための OD を開いたらどうだろう」という提案も浮かび、発表者のたがしゅうさんの表情も次第に和んでいくのが印象的でした。リフレクティングチームだけでなく、フロアも発表者の気持ちをリアルに受けとめながら、共に考えているような温かい感覚が次第に出ていたと感じました。

演題 10 発達障害（神経発達症）に向けたオープンダイアログの実施について

発表者：久保田晃祥（NPO 法人ヴィータ）、一井繭良（NPO 法人ヴィータ）

久保田さん（とらっちさん）達の発表は、いわゆる「発達障害（神経発達症）」をもつ人を中心にした OD の報告です。過去 3 年ほどの間に、オンラインで 250 回以上、リアルで 50 回以上の開催があり延べ参加者数は 1800 人を超えるという活動です。コロナ禍によってオンライン活動が一層盛んになる、というプラス面も感じさせられました。ヴィータとは「区別の社会」から「相互尊重の社会」へ「どんな人でもその人らしく生活できる社会、生き生きと働ける社会を」という方向性を意識した活動であることが語られました。リフレクティングは当事者・ご家族による構成で、多様な声が発見に出されました。

「その人そのもの」と出会うことが大切であり、「発達障害」のある人の生きづらさは、発達特性そのものにあるのではなく、「他者との相互作用で困っているだけだ」という声に多くの方の賛同が集まっていました。

2 つの演題発表は、全体に温かな雰囲気で行進しており司会役としても心地よく、安心して同席していました。ありがとうございました！

(太田茂行)

実践報告会 参加者からの感想を一部抜粋して掲載いたします。

- 活動が経済的にも保障されるシステムづくりと一人ひとりが「その人」との出会いを大切にする姿勢、そのうっし込みを繰り返しながら前に進んでいく必要があるなあとあらためて感じました。経験専門家の方と専門家、そしてその周辺の方々も協働できる体制、環境づくりにも思いをはせました。
- 既存の精神医療へのアンティテーゼの活動と、市民活動としての活動に二分されるように感じました。どちらも大切なことと痛感します。本日はありがとうございました。
- 今回は、医療現場での実践をお聞きすることができて、よかったです。私自身は、学生支援や障がい学生支援の中で、OD に近い形で実践していますが、大学卒業後も何かの形でその方たちを地域や医療で実践されている方々につなげられたらと思っています。
- 会場が 2 つに分かれていたため聞きたいテーマが同時になってしまったことが残念でしたがそれぞれのコミュニティの活動が聞けたことが今後の自身の活動について参考となり、有意義な時間でした。
- あんなに穏やかな語り合いの中から、オープンダイアログの持つ底力、人の心を揺さぶる力の凄さを改めて実感しました。
- いろいろと考えることが湧き出てきて、とても心に響く発表が多く、みなさんがそれぞれで対話実践に頑張っていることも知れて、よい時間を過ごすことができました。最後のクロージングは「もやっと」しておりましたが、いろいろな考え方があり、でも「不確実性に耐える」のが OD の原則でもあり、ある意味、OD の実践報告会らしいなあ…と感じました。私事ですが、次回こそは、皆様に自分の実践を報告できるように、これからも精進していきたいという気持ちが強くなった一日でした。
- 実践報告をされた方々のお話を聞いて、話すことで伝わって、深まっていくことを感じました。世代を超えて影響し合い、時代が繋がっていくようにも思いました。世の中の出来事を知る度に、～しなければならないと思うこともありますが、してもいいこと・できることを考え、実践する意志を見つけてく

れるオープンダイアログは、言葉だけにはとどまらない景色や熱を伴って、当事者や医療関係者に留まることなく、活用できる場がもっとあるのではないかと感じました。精神科医療の現場を知っているわけではありませんが、現実には根差して、どこにも表現できなかつた言葉の数々が出てくる瞬間の感動を分かち合うことは、身近に実践できると思うので、一人の人として目標を与え続けてくださる方々に感謝しながら、歩み続けたいと思っています。今後もよろしくお願いいたします。

- ダイアログに出会って約6年になるかと思います。実践報告会には毎回？出席しておりましたが、今回は本当にODの成長に驚きました。コロナによりオンラインが普及し最初は何か対面とは違い違和感のようなものさえありましたが、慣れでしょうか？場合によってはかえって初回はオンラインの方が参加しやすいことや様々工夫してダイアログを実践していることを知りました。最近「OD勉強会」を開催する地域も増えており、ますます広まっていくこと間違いないと確信しています。勤務先の患者家族からオープンダイアログはしていないのでしょうか？（当院ではまだ発足しておらず、診療報酬の関係で依存症や発達障害者用のプログラムが優先で関心がない）と問い合わせがあったこと、本月初めて同地域の方が参加されていたことがとても嬉しく、良い時間を過ごすことができました。諦めずに進んでいきたいです。
- 1日かけて長いと思いましたが終わってみると充実の会でした。A、Bとどちらも聞きたくて選ぶのに悩みました。終始対話的であるというのは稀有な会だと思います。実は個人的に発表をしようかと思いつつ躊躇してしまいましたが、また今後、機会があれば挑戦しようと思いました。
- 各地での様々なオープンダイアログ実践報告を聞いて、エンパワーメントされました。医療や福祉の最前線現場で、オープンダイアログの哲学に共鳴する方々が多くおられ、最初から完璧にはできないし状況は厳しく失敗もあるけど、良い意味でのアマチュア・ボランティア精神で、とにかく始めよう・実践しようと思いで果敢に日本のメンタルヘルス領域の底上げに挑戦されている方達と分かち合う時間を過ごさせてもらい、私も役立ちたいと感じましたが、同時に最後の高木さんの提言がリアルな日本の精神保健福祉だと感じます。
- 実践報告を聞かせていただき、皆さんが開拓を進めて、その過程や変化、オープンダイアログ、対話的な場のチカラをしっかりと捉えながら、それを活かして次に繋がっていく事を実感しました。とても、勇気づけられました。運営スタッフの皆様、貴重な学びの場を準備・企画・運営をありがとうございました。お疲れ様でした。

- 同じエリアで活動している方々と顔を合わせる機会ができて良かった。自分が参加する会でのオープンダイアログの仕方しか経験したことが無かったが、様々な形で取り組んでいる活動があることを知れて良かった。
- この2月に会員になったばかりでどのような運びになるのか分からないまま参加しましたが、見守り役の皆さんの丁寧な進行のおかげで大変わかりやすく、報告からも学ぶことが多く参加できて本当に良かったと思っています。年度末までに重要なイベントがあったら逃したくなかったので、年度末ギリギリの2月に慌てて入会したのですが、その甲斐がありました。ありがとうございました。
- どの報告も興味深く、良かったです。短い時間で工夫されて、空気感まで伝えて下さったと思います。短時間なのと、全ての演題を見ることが出来ないのが残念です。せっかくの発表ですし、できればアーカイブで見られなかった発表も後日視聴する事が出来たら良かったのに…と感じました。発表者の方々と世話人の方々の熱意や気づかいが伝わってきて、嬉しく感じました。対話する事が、なかなか難しい日本人の文化だなあ…と感じていましたが、ODが上陸して10年程が経ち、ようやく最近身回りでも、ODを意識した「対話の文化の予兆」が、チラチラ見られるようになってきた、と感じます。ODNJPの委員の方々の熱意と苦勞と、多くの会員の方々の思いと期待が、少しづつ芽を出してきているように感じています。私も微力ながら、私なりに、その芽を少しづつ育てていきたいと思っていますので、これからも、宜しくお願い致します。また、毎年参加される方々の、同じ顔を拝見することが出来る事も懐かしく、嬉しく思います。こういう機会を作って下さって本当にありがとうございます。

05

アドバンストコース

2022 年 10 月にスタートを切ったアドバンストコースのご報告です。受講生全体で学ぶ 5 つの理論セミナーと、小グループでの「関係性の世界の探求 (ERW)」全 4 セッションを終え、「スーパービジョン (SV)」1 セッション、そして最後に学んだことを発表・共有しあう収穫祭を残すところとなりました。2023 年 9 月には対面での中間祭を開催することができました。中間地点での対話とディスカッションをいきいきと持つことのできる時間であったように思います。これまでのオンライン中心の学びに加えて、より身体性とプレゼンスの意義を実感する時間になりました。コース終了は 2024 年 9 月予定です。最後の収穫祭に向け、ひきつづき歩みを進めてまいります。

(大井雄一)

06

オープンダイアログの本紹介

会報 No.4, No.5 に続きオープンダイアログに関連する本をご紹介します。(編)訳者からの紹介です。気になる一冊が見つかれば、ぜひお手に取ってみてください。

サイコシスのためのオープンダイアログ

N. バットマン, B. マーティンデル編

石原孝二編訳、斎藤環、高木俊介、白木孝二、山田成志、宮本有紀、大井雄一、松本葉子、福井里江、植村太郎、辻井弘美、西村秋生、大谷保和、村上純一、石橋佐枝子訳、北大路書房、2023 年



本書の原書は、「サイコシスに対する心理社会的アプローチ国際学会」(ISPS) による書籍シリーズの 1 冊として出版されたものです。ISPS は 1956 年から行われてきた国際会議に源流があり、1997 年に学会組織となりました。

オープンダイアログは、「サイコシス」に特化したアプローチではありませんが、「サイコシスの治療へのアプローチ」と特徴づけられることもあり、サイコシスは特別な意味をもっています。(なおセイックラたちの論文では、「統合失調症の治療法」といった表現は一貫して注意深く避けられています。) サイコシスは「極度のストレスへの反応」であり、ダイアログはその応答である、という考え方(本書第 3 章)は、オープンダイアログの全体を理解する上で、重要なものでしょう。

本書では、オープンダイアログの理論と歴史、トレーニング、導入の過程や導入における困難、研究などがとりあげられ、米国、英国、ドイツ、イタリア、ノルウェー、デンマーク、フィンランド、スウェーデン、アイルランド、スペイン、スイスから、臨床家やサービスユーザー、家族など、様々な立場の人が執筆に参加しています。西ラップランドで実践されていたオープンダイアログそのものを導入できているところはありませんが、各国での様々な取り組みを知ることができます。

(石原孝二)

精神科診断に代わるアプローチ PTMF： 心理的苦悩をとらえるパワー・脅威・意味の フレームワーク

メアリー・ボイル, ルーシー・ジョンストン著

石原孝二、白木孝二、辻井弘美、西村秋生、松本葉子訳、北大路書房、2023 年



本書の原書は、英国心理学会臨床心理部会による資金提供で行われたプロジェクト「パワー、脅威、意味のフレームワーク」(PTMF) の入門書です。PTMF のプロジェクトは、本書の著者になっている臨床心理士のルーシー・ジョンストンとメアリー・ボイルや当事者たちによって進められてきたもので、その成果は、英国心理学会のウェブサイトで公開されています (<https://www.bps.org.uk/guideline/power-threat-meaning-framework-full-version>)。PTMF は精神科診断とは異なった仕方、「感情的な苦悩、普通ではない経験、困った・厄介な行動のパターン」を理解するフレームワークを提示することを目的としたものです。感情的苦悩(心理的苦悩)や厄介な行動は、パワーが否定的に作用することによって生じる「脅威」への反応(適応戦略)として生じ、パワーや脅威、脅威への反応はそれぞれ「意味」によって介在されている、というのが PTMF の基本的な考え方です。本書はオープンダイアログを主題としたものではありませんが、診断を重視せず、サイコシスを「極度のストレスへの反応」として捉えるオープンダイアログの実践にとって、PTMF の考え方は、重要な示唆を与えてくれるのではないかと思います。

(石原孝二)

07

編集後記

このたび第6号が無事発刊出来ましたこと、原稿執筆のご協力をくださいました運営委員をはじめ各委員会のお一人お一人、そして日頃の ODNJP の活動に様々な声をお寄せくださる会員みなさまに心より感謝申し上げます。

会報発行にあたりそれぞれお一人お一人の声を反映させて頂きながら、より充実した会報になったことを広報委員一同とても嬉しく感じております。

そして、今回の会報を最後に広報委員として会報編集や ODNJP コミュニティ Slack 運営にとっても大きな力を尽くしてくださった事務局の杉本光衣さんが、ご栄転に伴い今季で ODNJP を離れられます。杉本さんのこれまでの多大なご貢献に心より感謝申し上げます。

(大谷保和、笹原信一郎)

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン

<https://www.opendialogue.jp>

ODNJP 会報 No. 6

2024. 6. 15 発行

編集責任：笹原信一郎、大谷保和（ODNJP 広報委員）

編集：杉本光衣（事務局員）

《許可なく転載を禁じます》